

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
「純美にしてファイトに富む学校」 ～純粋で美しく、生き生きと活動する生徒の育成～	①生徒会活動の活性化と基本的生活習慣の確立 ②学習スキルの強化による学力向上 ③心の教育の実践

達成度 A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

①生徒会活動の活性化と基本的生活習慣の確立							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	・生徒会による規範意識の向上	・生徒会本部や生活安全部との連携による校内規律遵守の風土をつくり、まじめに学校生活を送る生徒が報われるようにする。 ・服装、頭髪等の検査で90%以上が第一検査で合格できるようにする。	・生徒指導主事を中心として、生徒会役員が自律的に活動できる環境づくりと働きかけを行う。 ・生徒会役員が本校の課題について積極的に働きかけていることを月1回の生徒集会やタイムリーな放送、たより等で情報発信する。 ・各種取り組み、各行事に生徒の出番を必ず設定し、評価する。	A	・生活安全部の生徒に担当職員が適切な活動支援を行うことで、全校生徒が校内の規律を遵守しようとする雰囲気が出てきた。 ・服装・頭髪検査日を早めに予告しておけば、第一検査で合格する生徒が多くなり、より規範意識の向上につながると考えられる。	・服装・頭髪検査日を一週間前に子どもたちに知らせるとともに、保護者にもプリントやメール等で知らせる。
学校運営	○開かれた学校づくり	・開かれた学校づくりの推進 ・社会貢献活動の推進	・85%以上の保護者・地域の方々が学校の様々な取り組みを知っている。 ・地域に誇れる特色ある活動を展開する。	・HP、メール配信、各種たよりなど学校からの情報提供を充実させるとともに、地区懇談会や地域の各種会議を活用し、情報提供を行う。 ・地域行事、ボランティア活動等に参加し、発展させたいという意識を高める。 ・学校支援連絡協議会の活用を図る。	A	・学校便りを定期的発行しHPに掲載したり、学校の様子を取り組んでいることを小まめにメール配信したりすることで、保護者にお知らせしたいこと、緊急時のお知らせなど連絡することができた。しかし、年間の行事計画をHPに掲載できず保護者等への配慮が必要であった。 ・神崎子どもまつりなど地域行事に、吹奏楽部、文化部、美術部など積極的に参加し、地域に貢献することができた。	・プリントや各種集まりで花まる連絡帳への登録をお願いし、ほぼ全保護者に登録してもらえたようになった。今後も、HPの閲覧や緊急時のメール連絡等の活用を積極的にお知らせをし、より学校に関心を持っていただけるように学校HPの学校行事予定やお知らせを充実させ、発信していく。
教育活動	●健康・体づくり	・部活動の奨励と推進 ・望ましい生活習慣の形成	・主体的に部活動に参加し、心身の発達を目指す。 ・生徒一人ひとりが体調の自己管理ができるようにする。(睡眠・食事・歯磨き) ・朝食喫食率100%を目指す。	・部活動と学習の関連や体調の管理について、実態に応じた指導を行う。 ・各種アンケートの中で、学習や生活等の調査を定期的に行い、実態に応じた指導や個別指導を行う。 ・学校だより、保健だより等で、健康管理について系統的に保護者に啓発をする。	A	・部活動や社会体育に積極的に参加し、輝かしい成績をあげることができた。一部だか辞めたり、転部した生徒がいたが、それぞれの学校生活向上につながらない生徒がいた。 ・インフルエンザ等感染症の予防ができ、昨年より100名近く罹患者が減少した。 ・朝食喫食率は2%減少したが、県平均は上回っている。	・部活動休養日を週休2日になったため、身体面の疲労回復ができ活動日がより一層充実すると考える。今後も基本的生活習慣(朝食摂取・手洗い等)の確立に向けて、養護教諭、担任が集団・個別の指導を行うとともに、生徒会活動を活性化して定着をめざす。

②学習スキルの強化による学力向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・全教科での授業研究会の実施 ・学習習慣と家庭学習の定着	・個に応じた指導やわかる授業、生徒の学習への主体的な取組に向けた指導方法の工夫・改善を行う。 ・生徒が計画的、自主的に家庭学習に取り組む手立てを行う。	・1学期中にQ-Uや学力調査の結果から生徒の実態を丁寧に把握し、分析結果を指導に生かす。 ・各研究会、各教科等で研究テーマに基づいた授業研究会を年1回以上実施する。 ・全職員で神埼プラン(学習規律)の徹底を図る。 ・「親学・子学」等を活用して学習方法の指導を行い、家庭学習の定着を図るとともに、学校だより等で家庭学習の意義や内容を家庭に啓発する。	A	・全国、県学力4月調査の結果、昨年度に比べ県対比で全教科、全学年で改善が見られたが、まだ、県平均には全教科全てでは到達できていない。そのため、授業改善や家庭学習の充実を図り定期テストに向けた事前学習の工夫やテスト後の事後指導を推進してきた。更に学校、家庭でも賞状を繰り返し生徒への学力向上への意識を高めていく必要がある。 ・Q-U検査の結果について学年、学校全体で情報交換を行い、課題を抱えている生徒を組織的に支援するように研究会を実施し、学習指導と学習環境の改善に取り組み、家庭と連携し少しずつ改善が見られた。	・学力向上に向けて、授業改善を第一に進める。板書の工夫や発問の仕方など基本的な授業スタイルを踏襲し、電子黒板やタブレットを活用した授業の拡充など、「わかりやすい授業」を展開する。 ・道徳の教科科に併い、コミュニケーション力を高め、更に規範意識の向上に努める。 ・家庭学習の充実につながるよう生徒のみならず、家庭にも啓発していく。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・全教科でのICT活用教育の推進	・全教科でICTを利用した授業実践を行い、効果的な活用方法を検討するとともに生徒の考える力、表現する力を育成する。 ・skyメニューの導入	・各教科の年間計画の中にICTの活用について明記する。 ・職員間でICTについての情報交換を行い、職員の意識を高める。 ・校内研修等でskyメニューを活用した授業実践を行う。	A	・年間指導のとりまとめが不十分であった。 ・研究発表などで積極的にICT機器を取り入れていたため、職員間でも利用法についてアドバイスを求める場面が多々見られた。 ・skyメニューの集約機能を使った導入を積極的に利用する場面が多々見られた。	・昨年度に引き続き、積極的にICT機器を活用する授業を行う事ができた。また、skyメニューを活用することで生徒の興味・関心が高まるような授業が展開できた。今後もskyメニューの効果的な利用法を探ることで、興味・関心の高まりが期待できると考える。

③心の教育の実践							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育推進教員を中心とした道徳の授業の活性化 ・無言清掃での「五つの心」の育成・深化	・全担任による道徳の授業を公開する。 ・体験活動や行事の事前や事後に、道徳の授業を取り入れ、道徳性を養う。 ・無言清掃から無音清掃へ発展し、徹底していく。	・ふれあい道徳教育を地域に公開し、道徳教育の充実を図る。(5月19日実施予定) ・「考え議論する授業」について研修を行う。 ・無言清掃を通して、「五つの心」を磨く。掃除の前後に、教師や生徒が「五つの心」に関わる話を毎日行う。	A	・ふれあい道徳教育を全担任で授業公開ができた。 ・来年度からの特別の教科道徳の実施に向けて研修会を行った。 ・行事などの前後で、関する項目の授業を行い、補充、深化に努めた。 ・無言清掃の徹底ができた。	・「特別の教科道徳」を実施し、考え、議論する道徳の授業を行うため、研修をすすめ、指導方法の改善を行う。 ・生徒の意識を高め、無音清掃に向けて取り組ませ、「五つの心」を育てていく。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応	・Q-Uを活用したいじめの未然防止のための居場所づくり・絆づくりを行う。 ・いじめを見逃さない体制づくりを行い、組織的な対応をする。 ・保護者や関係機関との連携を密にする。 ・生活アンケートの実施と教育相談の充実	・SC・生活支援員等との組織的な連携を図り、早期対応に努める。 ・生徒指導体制・教育相談体制を強化し、全職員による情報交換を定期的に行う。(週に1回) ・生活実態アンケート(いじめ防止)を月1回実施し、状況把握に努める。	B	・毎週、職員間で生徒の情報交換を行い、タイムリーな集会や授業を行うことができた。 ・いじめ事案について、アンケートに被害生徒や周りの生徒が正直に答えていなかった。	・生徒が生活実態アンケートに正直に答えることができる雰囲気醸成するとともに、生徒と職員がいつでも相談できるように教育相談を充実させ、信頼関係を築いていく。
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標及び学校経営方針(重点目標)の周知	・教職員、生徒、保護者、地域へ周知を図る。教職員への周知率100%、生徒、保護者への周知率80%を目指す。	・職員会議や各種研修会等で職員に周知徹底する。 ・学校だよりやHP、または、各種の保護者会の資料等により周知を図る。 ・月1回のPTA役員会で資料等を提供し、啓発する。 ・学校支援連絡協議会で検証する。	A	・職員には、職員会議等で保護者には学校だより等で周知し、アンケート結果は生徒89%、保護者91%と昨年に比べ、どちらも10%以上向上した。メール、HP等を活用し、更に細やかに学校情報を保護者、地域に発信する。	・職員会議や各種研修会等で本校の現状を共有し、職員に周知徹底する。 ・学校だよりやHP、または、各種の保護者会の資料等に具体的に本校の様子を記載し、目指す生徒像について周知を図る。

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・文書処理手順の明確化 ・職員研修の活性化	・アンケートで「文書のデータを校務サーバーに保存・整理することができた」と答える職員を90%以上にする。 ・会議の開始・終了時間を明確化し実践する。	・校務サーバー校務分掌ごとのマニュアルを作成する。 ・会議、研修の開始時間と終了時間の厳守に努め資料の事前配布を確実にする。 ・定時退勤日の実践	A	・アンケートで「文書のデータを校務サーバーに保存・整理することができた」と答える職員が94%であり、目標を達成できたが、校務分掌ごとのマニュアルを100%作成することができなかった。 ・会議・研修の開始時間を厳守できたが、資料の事前配布と定時退勤日の実践は不十分だった。	・分掌事務ごとのマニュアルを作成する。 ・月曜日を定時退勤日とし、確実に実践する。 ・会議の2日前までに資料の事前配布を行う。
学校運営	○安全管理	・安全教育の推進 ・危機管理体制の整備	・避難訓練を年間2回実施する(不審者・災害)。 ・防犯・交通安全教室を実施する。 ・危機管理マニュアル、防火・防災計画の作成し、校内・外の安全点検や通学路の安全確認を行う。	・危険箇所の指導の徹底と定期的な登下校指導を実施する。 ・通学路安全マップの再確認を行う。 ・関係機関との連携を図る。 ・定期的な校外内外の巡回と安全点検を実施する。	A	・本年度は、火災時と地震時の訓練を2回実施した。その中で不審者対策に対する指導も併せて行った。避難については、迅速に且つ安全に移動・確認することができた。 ・毎日の校門指導では、安全な登下校を促すことができたが、テスト期間中の下校時に校門を一斉に出る時が注意して下校させる必要がある。	・各種訓練において生徒の危機回避能力を高める。 ・一斉下校の際は、学年毎に時間差で下校させるなどスムーズに校門を出れるように指導を工夫する。

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**  
 昨年度に引き続き、ほとんどの項目で目標が達成でき、良好な教育活動を展開することができた。特にアンケートにおいては、保護者の「学校経営方針の周知」が14%向上し、様々な行事等でご来校いただいたと同時に、ご協力をいただき、チーム学校としての力が拡大したのが実感できた。次年度に向けては、校内研究を「自他の良さに気づき認めあえる生徒を育成する道徳科指導の工夫(仮題)」をテーマに研究を始める。心の教育を学校生活の安定や学力向上にも繋げていきたい。また、更なる学級経営・学習指導・教育相談・生徒指導・特別支援教育の充実を図っていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目